

はじめに

今号には5本の原著論文と8本の短報を掲載することができました。成末さんのハッカチョウの論文は、現在日本において分布を拡大している外来種ハッカチョウが、日本で初めて記録されて以降の全国の記録を丹念に調べ上げ、本種の侵入や定着の要因、そしてハッカチョウの生態や在来種への影響について考察した力作だと思います。中畠さんのクロサギの採食行動の論文ですが、これまでクロサギがこうした行動をしていることは知られていなかったと思います。この論文は著者が野外鳥類学講座に参加する中で生まれた貴重な観察記録です。藤巻先生による北海道におけるホオアカの分布の論文、毎年、北海道の鳥について1種ずつ生息分布の情報をまとめて投稿していただいているが、鳥類の生息分布についてのこうした情報は、今後の研究や保護につながる基礎的な情報です。藤巻先生、今年もありがとうございました。同様に玉田さんの北海道渡島半島の鳥類相の論文も地道な研究ですが、同じ北海道と言っても環境が変われば鳥類相もかなり異なるということがわかります。藤田さんご夫妻による三宅島のヤマガラ、シジュウカラとスダジイの堅果、スダジイタマバエの3者の関係は、島の生態系における、食物をめぐる生物間の連鎖関係を解きほぐした群集生態学の良い論文です。

短報にも貴重な記録がたくさん含まれています。オオキアシシギやムナグロノゴマの報告、北海道でのシラコバトの記録や四国でのハクガンの記録も日本産鳥類の分布について新しい知見をもたらすものです。新しい行動の記録も重要です。これまでオニグルミの実はリスやアカネズミしか食べることができないと思っていましたが、アカゲラも食べることができるんですね。この行動が今後アカゲラ個体群に広がっていくのかは興味あるところです。台湾のヒメメジロの盗蜜行動の観察も、普段見慣れている鳥の行動の一側面にスポットを当てた記録です。都会のスズメの繁殖回数の増加についての報告は都会に生活するスズメの人為的環境に対する適応力を考えさせる報告です。11年にわたる鳥類標識調査の結果から三宅島に生息する鳥類の寿命について論じた論文も島の鳥類の生活史特性を考える上で重要な報告だと思います。

鳥の研究にはいろんなアプローチが可能です。何年にもわたる長期の記録も大切ですし、野外でふと見かけた鳥の面白い行動に焦点を当てることも面白いと思います。掲載されたいろんなアプローチの論文、報告から新しい研究テーマが生まれてくることを期待しています。

Strix 編集長 上田恵介